

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者氏名: I様 70代 性別:女性 介護度:5

病名:慢性心不全 利用サービス:入所

経過:元々 10年間ほとんどベッド上の生活。平成28年8月にJ病院に敗血症で入院。その後12月初旬までO病院で3ヵ月間入院加療後、在宅生活に入る。在宅ではベッド上寝たきり状態で過ごし、起居動作は全介助、食事動作はベッド上、更衣は介助、排泄はバルーン留置と差し込み便器で対応、入浴は清拭のみと日常生活は全介助の状態、平成29年10月当施設へ入所。

内 容

「家に居た時は、このままベッドの上で天井を見ながら人生が終わると思っていた。だから靴も全て捨てて終活を始めていたの。」I氏の入所初日の言葉です。

Iさんは当施設に入所する日まで、在宅にて10ヵ月間在宅看護・介護・リハビリを実施していたものの食事から排泄まで全てベッド上で行い、車椅子に乗車することもなく、正に寝たきり状態で過ごされていた。当施設もストレッチャーで入所、車椅子に乗車するも廃用症候により移乗は3人介助、座位保持困難にて全介助の状態であり、入所時の身長150cm体重は95kgと重度の肥満と重度の廃用症候群を認めました。しかし、認知面は良好で状況理解も保たれていたため、当施設入所をきっかけに生活の再構築と人間回復を実現できるという印象を強く持ちました。

入所当初はまずは廃用症候群の改善、無理なく全身状態の安定と基礎体力向上を目標に

- ①生活リズムを構築（日中離床+車椅子乗車1h以上）すること
- ②体重管理と減量
- ③バルーン抜去+トイレでの排泄動作導入を入院時合同評価と初回カンファレンスにて多職種で方針を共有しました。

本人とも目標を共有し、リハビリでも毎日目標に対する達成度合を確認することで、効果を実感でき行動意欲に繋がるようにサポートしました。

「まさか、この短い時間でこんな奇跡が起こるなんて…ここに来てリハビリを受けていなければ、あのまま人生が終わっていたと思うと…本当に感謝しかありません。私、人生を取り戻しました。」

I氏の入所から一ヵ月が経過し、初めて歩行器で歩行練習をした時の言葉です。この時にご本人が流した涙とこの力強い言葉を聴き、担当セラピスト始め、看護、介護職員の胸が熱くなりました。

その後、ご本人は意欲的に入所生活とりハビリを継続され、3ヵ月の介入でADL動作は車椅子自操で修正自立（入浴のみ浴槽の出入り要介助）、歩行も歩行器使用にて連続250m可能となり、10m歩行は10秒と実用歩行レベルに向上しました。間もなく歩行器にてフロア内ADL修正自立可能な状態です。

体重も83kgとマイナス12kgとなり、食事のカロリー制限に加え、1日3～5回の自主トレーニングの施行も日課として定着しており、入所当初に掲げた70kg台までの減量を目標に積極的に汗を流されています。

当初の方向性は特養入所でしたが、能力面の向上により、現在は歩行での自宅退所を目標に当施設での生活を継続しています。